「銀杏募金」をして

世界の子どもたちの助けに！

報告者	東京都狛江市立狛江第三中学校　　山下　ひとね先生

POINT

昨年まで、普賢岳から始まり、阪神淡路の震災、三宅島の中学生などその年に不幸に遭われた方がたに、あるいは身近な狛江市の社会福祉協議会に役立ててもらおうと募金してきましたが、今年度は、世界に目を向けて考えて、ユニセフに募金することになりました。

狛江第三中学校では、平成3年に起こった長崎普賢岳の被災地に募金活動をすることになりました。ただお金を集めるだけの活動ではなく、「生徒の手で何かできないか」を考え、その結果、学校の校門にある銀杏並木から落ちる銀杏の実を募金をしてくれた方にお返しをしようということになりました。それから12年間、毎年「銀杏募金」として生徒会の行事として続けられてきました。11月上旬に計画されている合唱コンクールの日に合わせて、銀杏の実を準備します。銀杏の木は学校の前身からある木で樹齢100年にも達する木だといわれています。校門から生徒の玄関に向かって左右に5本ずつ植えられています。そのうち実をつける木は5本です。秋から冬にかけて銀杏の実は色づきます。熟した銀杏の実を枝から落としてもらいみんなで拾う。そして、皮から取り出し、一つ一つ丁寧に洗い、天日で干す。この作業は生徒会を中心として、専門委員（学級、生活、保健体育、報道図書、美化）と部活動参加者、有志などを募って行います。今年の秋はたくさんの実が取れたので、休日も返上して、皮むき作業をしました。1袋180gで400袋。約72キログラムの銀杏の収穫がありました。今年は11月1日が合唱コンクールの日でした。狛江市のエコルマホールの受付に生徒会の役員6人が立ち「銀杏募金をお願いします。」と大きな声で呼びかけ、参観に来た保護者から募金してもらい、お礼に1袋を渡す活動をしました。小さな銀杏の実から始まった、私たち狛江市三中生徒の募金活動は生徒たちの思いをたくさん詰めて、保護者やご近所の方がたにも協力していただきたいという願いから、13年続けてくることができました。これから先も自ら活動し行動することが、社会の一員として大切なのだという思いを伝えていきたいと考えます。

生徒会よりユニセフに届けたことを報告するたよりを作りました。

読売新聞

朝日新聞むさしの版

毎日新聞

日本ユニセフ協会から感謝状が届きました。